

事前質問事項一覧

■戦略 3 - 1 都市拠点がにぎわうまちづくり

No	確認事項	回答	委員名	担当課
1	<p>3 - 1 の各事業（事務事業評価シート）の「5. 事業の評価」にある、必要性・有効性・効率性の評価項目（評価基準も含めて）は、各課で共有されているのでしょうか？また、1次評価・2次評価を行う際にもこの評価基準が統一的に活用されていますか？</p>	<p>事務事業評価については、市では、「白井市事務事業評価及び事務事業の見直し基準」を定め、これを基に事務事業評価を行っている。また、後期基本計画から、施策ごとに担当者が集まり、評価を共有するとともに、今後の改善点などの検討を行っている。</p> <p>施策評価については、1次評価から3次評価（外部評価）までの各段階における評価項目や評価視点を示し、これを基に行政評価を実施している。ただし、3次評価（外部評価）における評価基準については、評価者側の基準であることに加え、施策評価を実施した時点で確定していないことや、今回の評価の実施により変更がある可能性があることから、施策評価実施時に提示はしていないものである。</p>	鎌田委員	企画政策課
2	<p>市民のニーズ調査等はどのようにされているのでしょうか</p>	<p>駅周辺でのにぎわいづくりに向けては、これまで住民意識調査やモニターアンケート等により、白井駅周辺で買い物や遊んだりする頻度、白井駅前の魅力向上の方向性等について把握に努めている。</p> <p>なお、産業振興課が所管する「駅周辺地域活性化事業」では、白井・西白井駅前の公共用地である駅前広場や公有地である給食センター跡地（西白井駅）を活用した社会実験であるトライアルサウンディングにより市民ニーズを含む市場調査を行っている。</p> <p>具体的には、民間事業者の提案により、キッチンカーを両駅前に設置することによる飲食需要の調査を行い、その際、来訪者へのアンケート及び出店事業者へのヒアリングを実施している。</p>	手塚委員	都市計画課 産業振興課
3	<p>「1次評価」のなかの「定性的評価」に書かれていることは、評価(CHECK)というよりはACTIONのように読み取れませんが間違いないでしょうか？</p>	<p>定性的評価については、後期基本計画1年目の評価ということもあり、おおむね順調に進捗した点として、前期基本計画からの継続的な取組を着実に推進したこと、後期基本計画における新たな取組を円滑にスタートしたことを評価している。</p>	鎌田委員	都市計画課

No	確認事項	回答	委員名	担当課
4	<p>庁内横断的なプロジェクトチームのメンバーの選考については、どのような観点から行われているか教えてください（あて職でなくて）。</p>	<p>PTメンバーの選考については、「駅周辺地域活性化事業」を所管する産業振興課長が、興味と熱意のある職員を募集し、市長が辞令を交付している。なお、不足人員は駅周辺活性化に関連する公共施設マネジメント課、都市計画課から推薦してもらった。</p>	手塚委員	産業振興課
5	<p>「4 施策展開の状況」の「他分野他施策との連携」において、「庁内横断的なプロジェクトチーム」とありますが、このプロジェクトチームは組織的にどのような位置づけになるのでしょうか（意思決定か、調整役か、プレイヤーかなど）？</p>	<p>PTは、後期基本計画の「3-1 都市拠点にぎわうまちづくり」の目標実現に向けた取り組みである白井駅周辺や西白井駅周辺などの地域特性に合わせたにぎわいづくりのための構成事業の1つである「駅周辺地域活性化事業」の推進役（プレイヤー）である。</p>	鎌田委員	産業振興課
6	<p>市役所・白井駅・西白井駅周辺のにぎわいづくりについて、市役所周辺の土地利用について、「地区計画」協議が整ったとあるが、どの様に整ったか、概要はどのようなものなのでしょうか。</p>	<p>市役所南側の区域では、白井市まちづくり条例に基づいて、土地所有者等が自らの地域のまちづくりを議論する「市役所周辺地区まちづくり協議会」を設立している。</p> <p>市は、協議会支援の一環として、当該エリアにおける民間事業者の土地活用の可能性を調査するため、サウンディング型市場調査（民間事業者との対話）を実施しており、その結果を踏まえて、協議会が東京電力グループ提案のデータセンター立地計画を選定した。</p> <p>その後、東京電力グループの東電不動産が協議会と交渉を進め、さらに、市と開発事業に関する協議が進んだことから、データセンターの立地を可能とする都市計画変更に関して、千葉県と事前協議を行い、協議が整ったところである。</p>	酒井委員	都市計画課

No	確認事項	回答	委員名	担当課
7	白井駅周辺まちづくり勉強会をUR都市機構と行った意味は。	<p>白井駅周辺は、1979（昭和54）年の千葉ニュータウンの街びらきから40年以上を経過し、一部施設の老朽化や居住者の高齢化が進むとともに、市民ニーズやライフスタイルの変化などに伴い、駅周辺に求められる機能も変化してきており、これらの変化に対応していくことが課題となっている。</p> <p>UR都市機構の有する様々なまちづくりに関するノウハウを活かして、今後の白井駅周辺における活性化方策等を検討していくため、UR都市機構と任意の勉強会を開催し、課題の整理や方向性の議論を行ったところである。</p>	近藤委員	都市計画課
8	必要となる都市機能の調査のため出店したキッチンカーにはどんなものがあり、何店くらい出店したのか	<p>キッチンカーの出店数は、白井駅前広場、西白井駅前広場については1日につき最大4店（台）、給食センター跡地については最大7店（台）で募集を行ったところ、両駅前広場では1日平均約3店、給食センター跡地では6店の出店であり、出店事業者の募集に当たって市内事業者の先行予約を実施し、1店が出店している。</p> <p>出店事業者の業種は、やきとりやコロケ、お好み焼き、ハンバーガー、ポテトフライなど軽食やスナックなどを提供する飲食店が主であり、その他として市産農産物を取り扱うJA西印旛の移動販売車が出店している。</p> <p>詳細は、市ホームページや地域情報サイト「しろいまっち」で公開している。</p>	近藤委員	産業振興課

No	確認事項	回答	委員名	担当課
9	7日間実施したトライアルサウンディングの結果はどうだったか。今後も開催するのか。	<p>駅周辺地域活性化の推進にあたり、商業施設の需要や必要な床面積、駅周辺地域のニーズを把握するため、キッチンカーによる社会実験と来場者へのアンケート調査を実施している。</p> <p>社会実験の実施期間は、令和4年3月25日から令和4年4月16日までの金曜日、土曜日であり、実施場所と実施回数は、白井駅前で4回、西白井駅前で2回、給食センター跡地で1回の計7回である。</p> <p>実施時間は、金曜日では帰宅する高校生やサラリーマン等を対象に午後3時から午後8時まで、土曜日ではファミリー層を対象に午前11時から午後3時まで実施している。</p> <p>集客数については、来訪者数をカウントはしていないが、来訪者アンケート回収数は494名となっている。</p> <p>出店者の満足度については、事業者へのヒアリングからは、多くの事業者から継続して出店したい場所であるなどの声をいただき、満足度は高いと考えている。</p> <p>この社会実験から見えてきたことについては、詳細は分析中だが、需要側・供給側の双方にニーズが有ることが判明した、と市では考えている。</p> <p>今後は、「駅周辺地域活性化事業」として駅周辺地域の課題や必要な都市機能等を調査するため必要であれば実施を検討する。</p>	若旅委員	産業振興課
10	西白井駅近くの給食センター跡地の活用計画は具体的にありますか。	<p>産業振興課の所管する「駅周辺地域活性化事業」の目的は、白井・西白井駅周辺地域の特性に応じたビジョンを検討・実現し、駅周辺地域のにぎわいの創出と活性化を図ることであるため、公共施設再配置及び公有地の活用は所管外だが、2021(令和3)年12月10日の行政経営戦略会議において、集客力のある公共施設は駅周辺の活性化に資すること、及び、給食センター跡地は駅周辺の再編成を行う際に有用であることなどから、これを含めた駅周辺のビジョンの策定を進め、その実現を検討していくこととなった。</p>	酒井委員	公共施設マネジメント課 産業振興課

No	確認事項	回答	委員名	担当課
11	<p>【取組1】ですが、白井駅前周辺地区と市役所周辺地とが、千葉ニュータウン事業から除外された営農調整区域（生産緑地？市街化調整区域？）で分断されているのは当市の「顔」となる街作りの大きな課題だと認識していましたが、いよいよこの部分がプロジェクトとして動き出しているのは大変楽しみです。「中心都市拠点」について県やURとの協議やトライアルサウンディングをしたとありますが、その成果として開発のグランドデザインを市民に対して示せるのはいつになりそうですか、市民の目に見える成果にフォーカスした時間軸のスケジュール感に示してもらった方が、進捗状況を評価しやすいです。</p>	<p>No.6のとおり市役所南側においてデータセンターの立地に向けた手続きが進んでおり、事業者からは2025（令和7）年2月末に開発事業が完了すると聞いている。</p> <p>トライアルサウンディングは、ご指摘の千葉ニュータウン事業から除外された営農調整区域での取組ではなく、産業振興課の所管する「駅周辺地域活性化事業」の取組の1つである。</p>	中野委員	都市計画課 産業振興課
12	<p>中心都市拠点の活性化に向けて、役所や駅周辺で魅力ある取組みをしてくれる人たちを地域内外からどのように集めようとしているのか？</p>	<p>駅周辺地域の活性化を進めるためには将来ビジョンを共有することが重要であり、ビジョンを共有する方々と、多様な手法・取組を組み合わせることで事業実施・運営のサイクルを回しつつ、結果を都度フィードバックし、必要に応じて方向性を修正しながらエリアの価値と持続可能性の向上に資する取組を連携して進めていくことを考えているが、そのためには、共感されるビジョンの策定が重要である。</p> <p>現在は、ビジョン策定段階の小さな社会実験をサウンディング型市場調査（トライアルサウンディング）により事業者を募集し、その対話のなかで取組を提案していただき事業を実施している。また、併せて地権者についても駅周辺地域エリアの将来像を話し合う受け皿として、白井市まちづくり条例に基づく地区まちづくり協議会を立ち上げることを提案し、座談会やアンケート調査を行っている。</p> <p>今後も共感をキーワードにし、市内外からサウンディング型市場調査などによる対話を重ねることで事業者を募り、ビジョン実施も含め、取組を実施していく予定である。</p> <p>また、すでにマルシェなどを開催している団体を取材・広報する際には、新たに取組もうと考えている人々の参考となるように取り上げ方などを工夫する。</p>	関谷委員	産業振興課 秘書課

No	確認事項	回答	委員名	担当課
13	様々な取組が面的なものとなって、幅広く可視化されていくために、どのような工夫を考えているか？	市民や関係者、職員等が中心都市拠点における取組等を視覚的に理解・共有できるよう、今年度、中心都市拠点内におけるエリアごとの今後の方向性や具体的なプロジェクトなどを地図上に落とし込んでいくこととしている。	関谷委員	都市計画課
14	副駅名があまり浸透していないように感じるが、アピールは充分か	<p>白井市第5次総合計画後期基本計画では、「駅周辺地域活性化事業」が重点事業に位置付けられ、2025（令和7）年度までに駅周辺地域のビジョンを策定することとしている。</p> <p>副駅名は、各駅のビジョンのコンセプトの1つとして、これを活かしたビジョンを描き、具体的に実現することで、もって副駅名の浸透を図っていきたいと考えている。</p> <p>現在の取組としては西白井駅が先行しており、副駅名「梨も騎手も育つまち」に関連し、(株)アニプレックス・千葉レインボーバス(株)との協働によるアニメ「群青のファンファーレ」のラッピングバスの運行や北総鉄道(株)との協働による記念乗車券の発売、巡礼マップの発信、等身大パネル・声優サイン入りポスター掲示などコンテンツツーリズムに繋がる可能性を調査しつつ来訪者の増加を図っている。</p> <p>また、西白井駅周辺地域におけるデザインコードに繋がる小さな試みとして、道路課と協力して南口ロータリーに設置した白井工業団地企業バス停留所のバスストップに副駅名看板で採用したデザイン（馬をモチーフにしたもの）を採用している。</p> <p>今後も機会を捉えPRしていきたい。</p>	若旅委員	産業振興課
15	成田からの旅行者や都心からの人の流れを呼び込む、北総線アクセス特急の停車について交渉していますか。	アクセス特急の市内駅停車については、これまで、北総鉄道株式会社の株主総会において、市長が要望を行っており、今後も機会を捉えて続けることとしている。	酒井委員	企画政策課
16	工業団地アクセス道路の事業費が2024年以降0になっているのは事業終了ですか。	2023年（令和5年度）に整備完了、2024年（令和6年度）の供用開始を目指しており、財政推計（令和2年8月改訂）上も、2023年（令和5年度）までとしていることから2024年度（令和6年度）以降「0」としているが、本年度中に整備スケジュールを見直し、完了予定を延期する見込みである。	酒井委員	道路課

No	確認事項	回答	委員名	担当課
17	工業団地アクセス道路を整備することで、どのような活性化を見込んでいるか	<p>工業団地アクセス道路の整備により、工業団地から国道16号までの慢性的な渋滞の解消が図られる。また、白井工業団地から国道16号へのアクセスが改善し交通利便性が改善されることにより、既存企業の就業環境が向上するほか、新規企業の立地が促進する可能性がある。</p> <p>さらに、東側に並行する路線（市道00-004号線）は、現在、工業団地と国道16号を結ぶ主要ルートであり通学路にもなっているため、交通量の増加とともに交通事故の危険性が増している。</p> <p>当該道路の整備により、上記路線から交通が転換されるため、周辺道路の安全性の向上が図られる。</p>	近藤委員	道路課 産業振興課
18	<p>工業団地アクセス道路の土地買収はR3年度末:95.7%、整備率：3.6%とあるが、現在での設計修正の具体点は何か。現計画での道路延長は何K mで、整備済は何K mか。</p> <p>また、R4年度に暫定供用等の検討とあるが、どの部分か。少なくとも16号線から工業団地までのアクセス道路の整備を早期実現してはどうか？（都市計画決定等の手続は完了しているのではないか）。</p>	<p>①設計修正の具体点は何か。 →用地取得が困難なところについて、道路線形の一部を見直し、交通管理者である千葉県警規制課との協議を行い、暫定供用を目指す。</p> <p>②現計画での道路延長は何k mで、整備済は何k mか。 →道路延長（全体）は2.1k mで、うち整備済は76.1mである。（2021（令和3）年度末時点）</p> <p>③暫定供用の検討箇所はどこか。 →検討箇所は、2箇所、工業団地入口交差点付近と、同交差点から国道16号方面へ約500m進んだ付近である。</p> <p>④16号線から工業団地までのアクセス道路整備の早期実現してはどうか。 →現計画と設計修正による計画をもって暫定供用に向け、道路整備を進めて行く。</p>	宇賀博委員	道路課
19	【取組2】ですが、工業団地アクセス道路の暫定供用の目標年次はいつですか。道路は目的ではなく手段ではありますが、やはりこれも「検討」の先のゴールの時期を示してもらった方が取組の進捗状況の評価がしやすいです。	現在の供用目標年次は2024（令和6年）度であるが、本年度中に整備スケジュールの見直しを行い、暫定供用の目標年次を再設定する。	中野委員	道路課

No	確認事項	回答	委員名	担当課
20	「4 施策展開の状況」の「改善した取組」で「老朽化した公共施設の再配置」とありますが、市全体の公共施設再生計画のような基本計画はあるのでしょうか？	<p>本市の全ての公共施設等を対象とし、長期的な視点に立った「総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針」を取りまとめた「白井市公共施設等総合管理計画」を2017（平成29）年3月に策定した。</p> <p>さらに、将来にわたり、公共施設等を適正に管理していくためには、維持管理や更新にかかる費用を縮減・平準化した上で、長期的な視点に立った対策を計画的に進めていく必要があることから、総合管理計画に基づく施設ごとの長寿命化計画となる個別施設計画を策定した。</p> <p>【建築系個別計画】</p> <p>白井市学校施設の長寿命化計画（2020（令和2）年8月）</p> <p>白井市公共施設個別施設計画（2021（令和3）年3月）</p>	鎌田委員	公共施設マネジメント課
21	「施策の方向性（中長期）」において、イベントの実施に当たって、市民団体の自立を促すとあるが、相談できる窓口などは設けるのか	<p>専用の相談窓口を設ける予定はない。各団体の状況などに合わせて、秘書課や市民活動支援課、しろい市民まちづくりサポートセンターなどが個別に相談を承る。</p>	若旅委員	秘書課
22	「進め方」において、土地利用ルールづくりとあるが、具体的なルールはできているのか。そのルールはどの場で公表するのか。	<p>土地利用のルールづくりについて、都市計画法では、市民自らが都市計画の決定や変更の提案を行い、主体的かつ積極的にまちづくりに関与できるよう「都市計画提案制度」を設けている。</p> <p>具体的には、0.5ha以上の一団の土地で土地所有者等の3分の2以上の同意を得て提案することができ、市は、まちづくり施策との整合や提案された都市計画の実現性、周辺住民の理解などの観点から、都市計画の決定や変更の必要性を判断することとしている。</p> <p>都市計画の決定や変更を行う際には、周辺住民への説明、都市計画審議会での審議、窓口での計画内容の縦覧等により、公表している。</p>	若旅委員	都市計画課